

令和2年度シラバス (地理歴史)

学番 中等3 新潟県立燕中等教育学校

教科(科目)	地理歴史(日本史B)	単位数	4単位	学年(コース)	6学年(自然科学)
使用教科書	山川出版社『詳説日本史B』				
副教材等	浜島書店『新詳日本史』 第一学習社『詳録新日本史史料集成』 山川出版社『詳説日本史 10分間テスト』 とうほう『ウィニングコンパス 日本史の整理と演習』				

1 学習目標

日本の歴史の展開を、わが国を取り巻く国際環境などと関連付けて考察させることによって、歴史的思考力を培い、国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての資質を養う。

2 指導の重点

- 教科書に出ている基本的な用語をしっかりと理解させる。
- 大学入試センター試験で必要とされる基礎的な学力を身につけさせるとともに、国公立大学2次試験等で問われる史料問題、記述、論述問題等に対応できる学力の養成を目指す。

3 学習計画

月	単元名	使用教科書項目	学習活動(指導内容)	時数	評価方法
4	4部 近代・現代 第9章 近代国家の成立	1. 開国と幕末の動乱 2. 明治維新と富国強兵 3. 立憲国家成立と日清戦争 4. 日露戦争と国際関係	明治維新、自由民権運動を経て、大日本帝国憲法が成立する近代国家成立の過程を理解する。 日清・日露戦争と外交関係の変化に着目しながら、経済・文化について理解する。	36	定期テスト 課題
5	第10章 近代日本とアジア	5. 近代産業の発展 6. 近代文化の発達	20世紀に入り、欧米列強に比肩するまでに成長した日本が帝国主義国家として世界とどのように関わってきたのかを理解する。		
6	第11章 占領下の日本	1. 第一次世界大戦と日本 2. ワシントン体制 3. 市民文化 4. 恐慌の時代 5. 軍部の台頭 6. 第二次世界大戦	第二次大戦については、国内状況を踏まえるとともに、東アジア・東南アジア・太平洋地域とどう関わってきたかを理解する。		
	第12章 高度成長の時代	1. 占領と改革 2. 冷戦の開始と講話	民主化の動きに着目しながら、占領期の改革の過程を理解する。		
	第13章 激動する世界と日本	1. 55年体制 2. 経済復興から高度成長へ	冷戦体制の中で、わが国がいかにして復興を果たし、国際社会の一員として活躍したか、また冷戦終結後の日本社会の変化について考えさせる。		
		1. 経済大国への道 2. 冷戦終結と日本社会の動揺			
7	政治史①—絵画資料からみる撰閣政治～院政期—	・『伴大納言絵巻』『平治物語絵巻』などの絵画資料を用いながら、平安初期から院政期までの主要事件を考察する。	34	定期テスト 課題	
8	政治史②—絵画資料からみる鎌倉時代—	・『蒙古襲来絵巻』等を用いて、鎌倉期の政治史を考察する。			
9	政治史③—明治憲法体制の成立—	・『伊藤博文伝』、政治経済の資料集を用いながら、明治憲法の成立過程と日本国憲法との違い、諸法典の内容などを考察する。			

10	民衆史—説話集と絵画資料からみる 古代・中世の民衆—  交通史①—越後を旅した人々— 交通史②—昔の燕の景観を考える—	<ul style="list-style-type: none"> <li>『今昔物語集』『一遍上人絵伝』をメインテキストに古代・中世の経済、民衆の姿を考察する。</li> <li>『梅花無尺蔵(万里集九)』『永禄六年北国下り遣足帳』『東北遊日記(吉田松陰)』『西遊草(清川八郎)』『日本輿地紀行(バード)』等の新潟県を旅した人々の記録を用いながら、古代～明治期までの交通史を考察する。</li> </ul>	34	定期テスト 課題
11	思想史①—仏教の受容—  思想史②—儒学の発展—  思想史③—蘭学・民衆思想— 思想史④—明治の思想—	<ul style="list-style-type: none"> <li>古代～近世までの絵地図、陸軍陸地測量部の地図を用いながら、近年までの燕市周辺の交通のあり方を考察する。</li> <li>倫理で学んだ日本仏教思想の特質とその変遷を、各時代の政治・社会情勢を踏まえて考察する。</li> <li>倫理で学んだ主要な近世儒学者の思想を、その背景となった政治・社会情勢を踏まえて考察する。</li> <li>倫理で学んだ蘭学などの思想を、幕府の政策を踏まえて考察する。</li> <li>啓蒙思想から国粋主義への転換を、東アジア情勢の変化を背景に考察する。</li> </ul>		
12 1 2 3	特編	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまで学習してきた日本史の知識を活用し、総合的な演習を行う。</li> <li>自分の考えをまとめて発表し合ったり、記録(レポート)として残す作業を行う。</li> </ul>	36	レポート等

計 140 時間 (50 分授業)

#### 4 課題・提出物等

- ・課題の提出や、小テストを実施することで知識の定着を図ります。
- ・模擬試験の前には過去問など別途課題を課します。

#### 5 評価規準と評価方法

評価はつぎの4観点から行います。

① 関心・意欲・態度	② 思考・判断	③ 資料活用・表現	④ 知識・理解
日本史に対して興味・関心を持ち、意欲的に学ぼうとしている。	日本史の知識をふまえ、現代世界の課題を歴史的視点から多面的・多角的に考察しようとしている。  歴史的視点から世界の多様性を学び、異文化に対する理解を深めている。	日本史の基本的事項に関する諸資料をさまざまな方法で収集し、主体的に選択・活用し、歴史的事象を追及する方法を身につけている。	日本史を理解するために必要な基本的な知識を身につけている。  日本を取り巻く国際環境と関連付けて日本史の大きな枠組みと流れを把握している。

以上の観点を踏まえ、定期考査を基本とし、課題提出、小テストなどで総合的に評価します。

#### 6 担当者からの一言

1. 5年次に学習した日本史の知識を、諸資料を活用することでさらに深く理解するとともに、倫理、政治・経済の知識と関連づけながら、記述問題・小論文問題等に対応できる学力を養います。
2. 授業中は板書を機械的に書き写すだけでなく、教師の解説をよく聞いてメモを取り、自分なりのノート作りを行います。

(担当：佐藤 優之)